

## 9月1日は防災の日 —自助力向上について考える—

日本列島はこの1年間も様々な災害に見舞われました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、現地に対応にあたられている皆様には心より敬意を表します。

本日9月1日は「防災の日」。1923年9月1日に発生した関東大震災にちなんで制定された、台風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波等の災害についての認識を深めるとともに、それらに対する備えを見直す日です。今年、九州地方を中心として被害をもたらした令和2年7月豪雨は、新型コロナウイルス感染症の流行が重なった複合災害となりました。防災の日にあたり、複合災害において重要視される自助について、本日はこれからの台風シーズンを前にご共有したいと思います。

### 新型コロナウイルス複合災害（令和2年7月豪雨）

令和2年7月豪雨では、避難指示対象が最大140万人にもおよび、ピーク時には避難所の収容能力を超えたために避難者の受け入れができなくなった地域もあったということです。これはそもそもの避難所収容能力の不足に加えて、新型コロナウイルス感染症対策によるソーシャルディスタンスの確保のための受け入れ人数制限の影響がありました。

また、これまでの災害では、「災害ボランティア」の助けが避難所の運営や生活の再建に大きな役割を果たしていました。感染リスク回避のために現在は県外からのボランティアの受け入れを行わないなどの措置がとられているため、現地では人手不足が深刻になっています。

### 自助力の向上について

上述の避難所運営や復興という生活再建にかかる人員不足だけではなく、発災時の医療現場の状況の逼迫も懸念されています。感染症拡大防止の対策として感染者・濃厚接触者・感染疑いのある人を適切に分別するなどの対応をとりながら、さらに災害による負傷者の受入れを行うということになります。例年の災害に比べて「周囲の人の手をかりづらい」状況の中で、今こそ私たち国民ひとりひとりの自助力を向上させるべきだと考えています。

### 近日配信予定！『あなたにもできる災害医療の基礎』

そこで今年度は、実際の災害現場で活動される医師などから学ぶ「自助力向上のための講習会」開催を計画しておりました。しかしながら現在の感染拡大状況に鑑み、講習会の開催ではなく、生団連会員の特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン様と共同制作の動画配信を行うことといたしました。動画内では、災害時の家庭や職場で限られた人数・資源での応急処置の方法や、救助・救護を行う優先順位を考えるトリアージの方法など、実際の状況を再現しながら紹介・解説しています。

同動画は防災月間である今月、数回に分けて配信いたします。団体内で広くご共有いただき、ぜひご活用ください。

### 感染症対策で避難者が注意すること

- ・人との間隔をあける
- ・マスクの着用  
※熱中症の恐れがあれば混雑を避けて外す
- ・スリッパ等を履く
- ・体温計を持参して毎日検温する
- ・消毒液、除菌シート、液体石鹸、ペーパータオル、マスク等の衛生用品は持参する
- ・トイレを流すときには便器の蓋を閉める
- ・ティッシュなどは袋に入れ、口を閉めて捨てる

(新聞各紙に掲載の情報をもとに生団連が作成)



▲動画撮影の様子